

科目名 (科目番号)	発達障害 理学療法治療学	教員名 小林聖美 他	学科等	理学療法	必修	履修年次	2
	(A:062243/B:062253)		曜日・時限等	時間割参照	単位数	2	
			オフィスアワー	水・6	A316研究室(小林)		
授業概要	こどもの障害は、性別、年齢、障害に関わらず様々であり、個々のライフサイクルを考慮に入れて理学療法を実施する必要がある。特に、発達の初期に問題のある小児期障害の理学療法では、対処の良否がその後の人間の生涯発達に大きく影響する。従って、小児期障害の理学療法では、正常発達を引きだし、異常発達を可能な限り抑制し、小児の生涯発達に寄与する必要がある。本授業では、正常運動発達の理論と発達過程の知識を整理・応用する能力を身につけ、脳性麻痺を中心に小児期障害の理学療法に関して、臨床像の把握・評価・問題点の抽出及び治療計画の作成・再評価、更に関連する治療技術までを系統的に学習する。						
準備学習	① 授業開始前にシラバスをよく読み、授業計画の中での各授業の位置づけを理解する。 ② 各授業で次回の準備学習について説明するので、予習する。 ③他の関連科目とのつながりを考え、知識の整理を行う。						
授業計画	回	学習内容・到達目標					
	1	小児理学療法総論	学習内容:VTR教材を用いて小児期の障害について再度学習する。 到達目標:小児期の障害に対しての理学療法の概要を理解する。				
	2	正常運動発達	学習内容:VTR教材を用いて正常運動発達について再度学習する。 到達目標:正常運動発達の理解が障害児の理学療法になぜ必要かを理解する。				
	3	脳性麻痺の一般的知識 姿勢反射	学習内容:脳性麻痺の疫学、臨床像などについて学習する。 到達目標:脳性麻痺の多様性について理解する。また発達に伴う姿勢反射について理解する。				
	4	脳性麻痺の動作分析1	学習内容:脳性麻痺児の動作分析を行う。 到達目標:正常動作との相違点を理解する				
	5	脳性麻痺の動作分析2	学習内容:脳性麻痺児の動作分析を行う。 到達目標:動作遂行を阻害する要因について考えることができる。				
	6	評価(1)	学習内容:筋緊張、変形・拘縮について学習する。 到達目標:筋緊張、変形・拘縮の評価ができる。				
	7	評価(2)	学習内容:深部腱反射・病的反射について学習する。 到達目標:深部腱反射・病的反射の評価ができる。				
	8	評価(3)	学習目標:自立的反応、協調性・発達評価について学習する。 到達目標:自立的反応、協調性・発達の評価ができる。				
	9	評価(4)	学習目標:感覚検査について学習する。 到達目標:感覚検査の評価ができる。				
	10	評価(5)	学習目標:前回までの評価について再学習する。 到達目標:前回までの評価を正確に実施できる。				
	11	脳性麻痺の理学療法1	学習目標:脳性麻痺児への基本的な運動療法を学習する。 到達目標:運動発達促進のための基本的な理学療法を実施できる。				
	12	脳性麻痺の理学療法2	学習目標:脳性麻痺児への基本的な運動療法を学習する。 到達目標:関節可動域練習を実施できる。				
	13	脳性麻痺の補装具	学習目標:脳性麻痺の下肢装具、車いす、座位保持装置等について学習する。 到達目標:療育児に必要な福祉用具の適用について理解を深める。				
	14	重症心身障害児の摂食・ 嚥下	学習内容:重症心身障害児の臨床像について学習する。 到達目標:摂食・嚥下障害への基本的な対応を身につける。				
	15	重症心身障害児の呼吸	学習内容:重症心身障害児の臨床像について学習する。 到達目標:呼吸障害への基本的な対応を身につける。				
成績評価の方法・基準	試験(80%)＋レポート・授業内のワークシート(20%)						
教科書	ベッドサイドの神経の診かた(改訂17版) こどもの理学療法	田崎義昭・斉藤佳雄 著 千住秀明 監修	南山堂 神陵文庫				
参考図書							
教員からのメッセージ	授業の進行度合いによって授業内容を変更します。						